

## 国内情報

No.1

|                               |  |
|-------------------------------|--|
| 調査者                           | 長島 花奈  |
| 情報ソースの刊行日                     | 2020/4 月   |
| 情報ソースの調査日                     | 2020/5/2   |
| タイトル                          | 新型コロナウイルス感染症 外来診療ガイド   |
| 情報ソース                         | 公益社団法人日本医師会  |
| 情報のカテゴリー                      | 感染予防   |
| URL                           | <a href="http://dl.med.or.jp/dl-med/teireikaiken/20200428_4.pdf">http://dl.med.or.jp/dl-med/teireikaiken/20200428_4.pdf</a>  |
| 概要                            | <ul style="list-style-type: none"><li>・感染経路は飛沫・接触感染によるが、気管挿管、ネブライザー吸入、軌道吸引、心肺蘇生などによりエアロゾルが発生し、空気感染する可能性も指摘されている。</li><li>・潜伏期間は1～14日（中央値5.1日）であり、感染力は発症直後に最も強く、8日目以降は大幅に低下する。また無症状であっても感染力があるとされている。</li><li>・感染予防として、呼吸器症状を認める患者にはマスク（布マスクでも可）をさせ、医療者はサージカルマスクを着用することが望ましい。ただし、上述したエアロゾルが発生しやすい状況では、N95マスクを着用し、キャップは必要に応じて着用することが望まれる。また、個人用防護服は着脱手順を守ることが重要である。</li><li>・新型コロナウイルスはアルコールまたは次亜塩素酸ナトリウム水溶液（0.2～0.5%の濃度）により不活性化できる。</li></ul> |
| 最も注目するポイント<br>理学療法にどのように役立つか？ | 標準予防策の徹底と、環境消毒について再度周知を行うことで、理学療法士が感染を媒介するリスクを下げる。また、エアロゾル感染が生じ得る医療行為を知ること、適切な防護策を図ることができる。  |